



## 2020年度第2回プチ国際理解講座



9月15日(火)にプチ国際理解講座が開催されました。今回のプチ国際理解講座は、7月28日に開催されたタイのおもてなし文化を学ぶ講座に引き続き、今年度2回目の開催となります。

今回は青年海外協力隊としてガーナで2年間活動経験のある本校の黒川佳子校長先生を講師としてお招きしました。「ガーナで学んだこと」「BLMへの道」「青年海外協力隊とは」の3つをテーマに2時間お話していただきました。

### ガーナの基本情報

- ・人口:2,977万人 ※日本12,953万人
- ・面積:238,537km<sup>2</sup> ※日本378,000km<sup>2</sup>
- ・公用語:英語
- ・内政:民主化が進み、平和
- ・産業:農業(カカオ豆)、鉱業(金、石油)
- ・純就学率:小学校 87.9% ※日本99.95% 中学校・高校 54.2%
- ・5歳未満児死亡率(1,000人あたりの死亡率):48人 ※日本2人
- ・水道普及率:30% ※日本98%
- ・その他:GNI(一人当たり総所得)1,190ドル 中所得国(2019年~) ※日本41,310ドル



ガーナの衣装を着た黒川校長先生



29名の生徒と先生方が参加しました  
※マスク着用・手指消毒・換気実施



BLM (BLACK LIVES MATTER) について



福島県出身の野口英世はガーナの病院で黄熱病の研究をし、ガーナの首都アクラで亡くなりました



矢森前校長先生もいらっしゃいました  
生徒たちへ激励の言葉を送っていただきました

黒川校長先生の「人は多様。見方、考え方も多様。同じものを見てもみんな同じに見えるとは限らない。」

「異文化とは人種や国や言葉の違いの中にあるのではなく、個人差である。」という言葉が印象的でした。

BLM 問題だけではなく、日本にも様々な差別や偏見があります。多様性を認め、お互いを思いやる心を持ちたいですね。

### 参加した生徒たちの感想(一部抜粋)

- ・ガーナの水道・電気の普及率に驚きました。私たち先進国の人間は便利さに生かされているのだと考えました。私は発展途上国に行って1人で生活することはできないし、彼らを可哀想だと思わないと思いました。そう思うことは彼らに失礼だと思います。私たちはガーナの人たちより物質的には豊かですが、心の豊かさでは劣っていると思います。
- ・差別や偏見問題は外国だけのものではなく身近なものであると知った。今はコロナウイルスでの差別や SNS での誹謗・中傷など、自分が当事者になりうる。自分に関わりのある問題であることに気づいたので何ができるかを考え行動したい。